



今回は、放送事業者（テレビ局）の取り組みをご紹介します。岡山放送(株)OHKでは、3月3日「耳の日」にあわせ情報番組『なんしょん?』で、**全編手話放送**を実施しました。「なんしょん?」とは岡山の方言で「なにしてる?」という意味で、生活情報を満載した地域密着番組です。また、昨年9月23日の手話言語の国際デーにも夕方のニュースを全編手話対応したほか、特別番組において、岡山商工会議所を「手話協力」として手話付きの番組を放送し、新しいスポンサーの仕組みを提示されたのです。

OHKがすごいところは「手話一つの言語」とし、バリアフリー社会の実現を放送事業者の立場で真剣に取り組んでいるところです。聴覚障害者の方には、中途失聴者の方もいますが、生まれつき耳が聞こえない方もいらっしゃいます。もともと耳が聞こえない方は第一言語として手話を習得し、第二言語として日本語を理解されているので、健聴者の日本人が日本語を母国語としてまず身に着け、そのあと第二外国語を学ぶような感覚でしょうか。

OHKでは、聴覚障害者・手話通訳者・テレビ局の3者で「手話は言語」を理念に、1993年から夕方のニュース番

組で「手話が語る福祉」というコーナーを毎月1回放送。手話表現を追求しながら28年間で284回の放送を続けており、的確な放送を研究されています。また、2021年に慶應義塾大学SFC研究所と共同研究をスタートし、「テレビ放送における情報アクセシビリティ」をテーマに、聴覚障害者をはじめとした情報弱者への情報提供方法を一緒に研究され、全ての人が理解できる放送を目指しています。OHKの取り組みは「岡山モデル」と全国から注目されています。OHK中静敬一郎社長は「放送コンテンツ作り、魅力を引き出す創意工夫とともに、手話放送をコスト面で助けるのみならず、社会貢献の受け皿を企業団体に提供するという画期的なモデルである」とおっしゃっています。一連の情報のバリアフリー推進活動が高く評価され、「ゼロ・プロジェクト・アワード2022（世界中のバリアをなくす取り組みの国際賞）」も受賞しています。なんと先進的な放送局だと思いませんか。

テレビCMに「手話」をつけることは、現状では多くの壁があります。技術的にもクリアする必要があるでしょう。CM向けに新しいデバイス開発も必要かもしれません。

ですが、今すぐにはできるバリアフリー社会対応は用意できています。それはテレビCMに、CC（クローズド・キャプション）で字幕を付けることです。字幕付きCM放送と制作の準備は万端整っています。

今回はOHKの手話に対する取り組みをご紹介しますが、広告会社の皆さんは、広告主の皆様に向けて、ぜひ、バリアフリー・バリアゼロという「障壁が無い社会」の実現を推進する企業として、まずは「CC字幕付きテレビCM」に踏み出すご提案をお願いいたします。

（ご質問は事務局 info@jaaa.ne.jp まで）



「なんしょん?」情報番組での全編手話放送（2022年3月3日）はOHKでは初の試み。
https://www.ohk.co.jp/cgi-image/17136/17136_NQxnbkgbxxVQBAmmbobYDCaskPBhiWPYCMjzJSR_HcwmvIJSOD.pdf



2021年9月23日放送「手話言語の国際デー」夕方ニュース
<https://www.ohk.co.jp/data/12810/pages/>



手話協力スポンサー：社会貢献の受け皿を企業団体に提供する画期的なモデル